

はじめに

北九州市立大学都市政策研究所と下関市立大学地域共創センターは、1994年に、関門地域の経済振興と交流発展に資することを目的に、「関門地域共同研究会」を設置し、以来今日まで関門地域に関する調査研究に取り組んでまいりました。そして、毎年度その研究成果を調査報告書『関門地域研究』として刊行すると共に、成果報告会を開催して、関門地域の活性化の在り様について地域の皆様と率直な意見交換を行ってまいりました。この共同研究が2つの大学の地域研究の発展につながり、さらには北九州市と下関市の地域連携にいささかなりとも寄与できたとすれば、それは当研究会にとって望外の喜びであります。

過去15年間に取り上げたテーマは、「地域住民意識調査」、「関門港」、「関門経済圏」、「環境」、「国際経済協力」、「金融」、「国際観光振興」、「ベンチャー創出・育成」、「ソーシャル・キャピタル」、「道州制と関門特別市構想」です。これらのテーマはその時々時代の潮流を反映して多岐にわたっていますが、しかし、いずれも海峡をはさんだ関門地域ならではの地域特性を鋭く捉え、地域課題に挑戦しているという点で一貫しています。

今年度のテーマは、斜面地（坂道の地域を含む）居住の生活問題と社会関係を取り上げることにいたしました。高齢化の進んでいる北九州市と下関市にとって、高齢者の斜面地居住問題や自治組織をどのように捉え、その問題を今後の地域づくりにどのように活かしていくかは緊急の地域課題となっているからです。

この調査の成果報告会は21年度早々に開催いたしますので、会場にお運びくださり、ご叱正、ご助言をいただければ幸いです。

2009年3月

2008年度 関門地域共同研究会会長

北九州市立大学都市政策研究所所長

晴山英夫